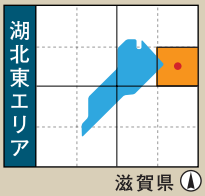
史跡
県指定

垣籠古墳（かいごめこふん）

長浜市垣籠町　昭和44年9月12日指定



垣籠古墳は、古保利古墳群（学習シートNo.037）とともに湖北を代表する古墳群である長浜古墳群（横山古墳群）を構成する前方後円墳です。明治15年、土地所有者が土砂の採取を行ったところ、鉄製の武器類が、さらに明治35年に再び開削した際には、人骨、鏡などの遺物が出土したことが記録されています。

当時のできごと	
5世紀末	古墳の巨大化が下火となり群集墳に変化する
507年	武烈天皇が没し、継体天皇を近江から迎える
6世紀初期	これまで古墳のなかった地域まで横穴式石室の古墳が造られる

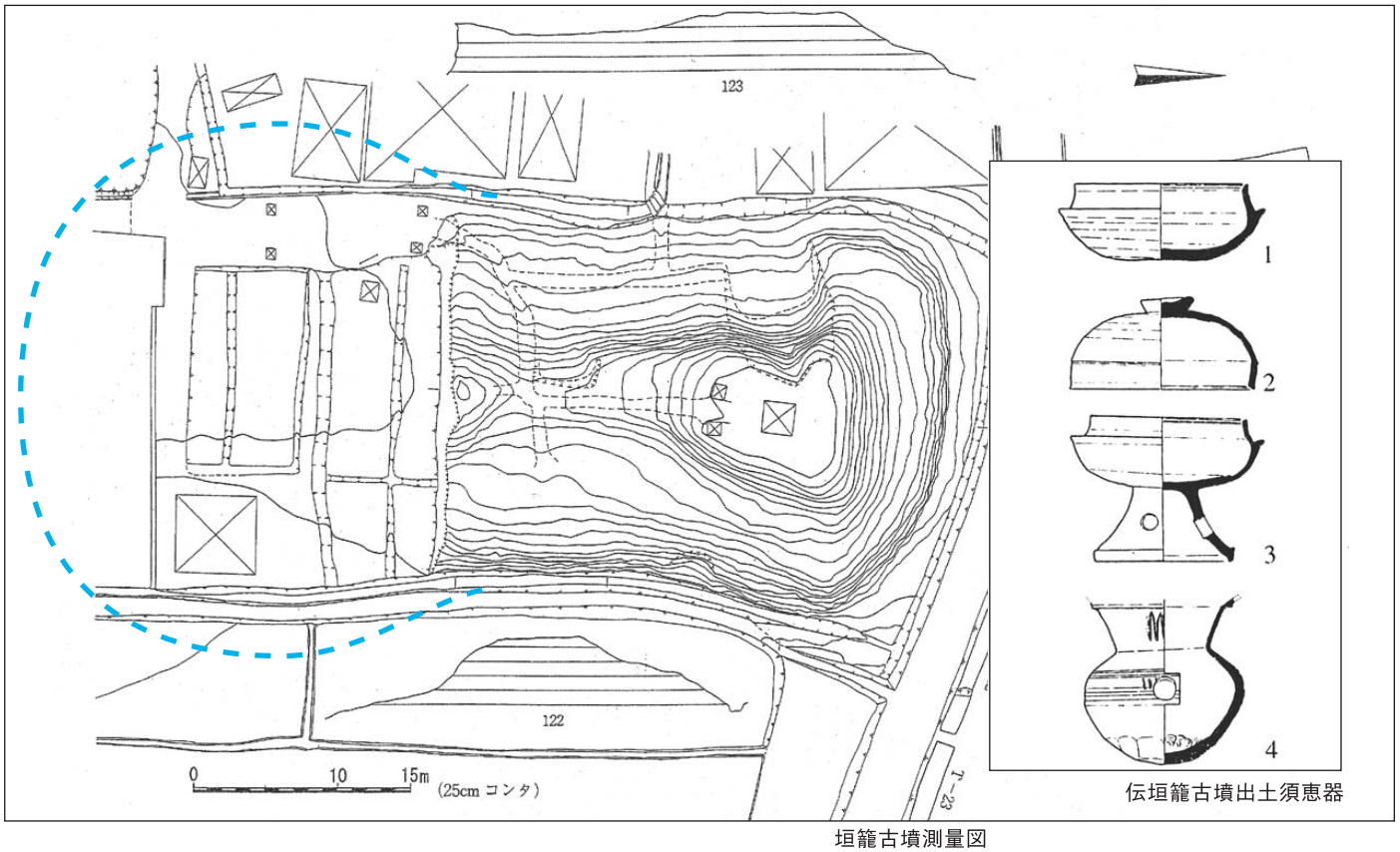
垣籠古墳の立地

垣籠古墳は、横山丘陵の西の平野に立地し、古墳時代前期以降、中期を中心とし、一部後期まで続く長浜古墳群の一部を構成しています。明治期に土砂採取のため墳丘の一部が破壊され、その際、多量の遺物が出土したことが知られています。墳丘形については、前方部を南に向ける全長50m程度の前方後円墳とされてきましたが、近年の測量調査や周辺の確認調査の結果から、前方部を北に向けた全長が60m程度、周濠を含めると80mを超える前方後円墳であることがわかってきました。

近年、地元の北郷小学校に保管されている茶臼山古墳（学習シートNo.040）から出土したといわれる遺物の中に、垣籠古墳から出土した須恵器が含まれていることが明らかとなり、この年代や、周濠から出土した遺物の年代から、垣籠古墳は、5世紀の終わり頃から6世紀初頭にかけて築造されたものと考えられるようになってきました。

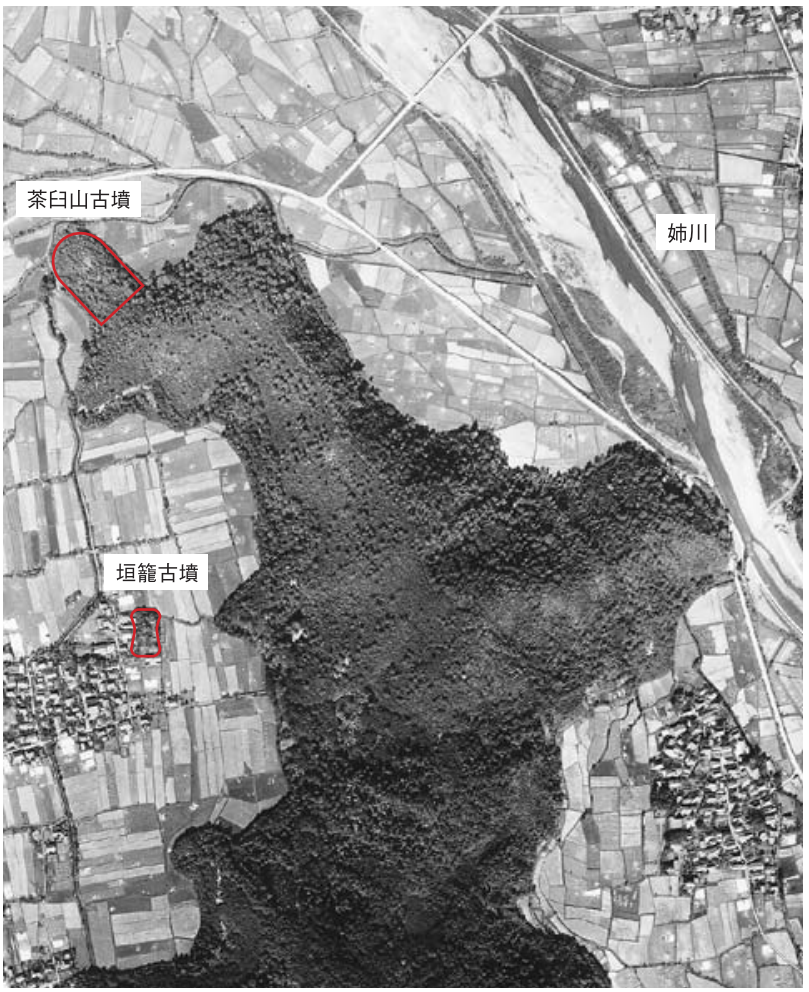


垣籠古墳全景　森の左の家の部分が後円部

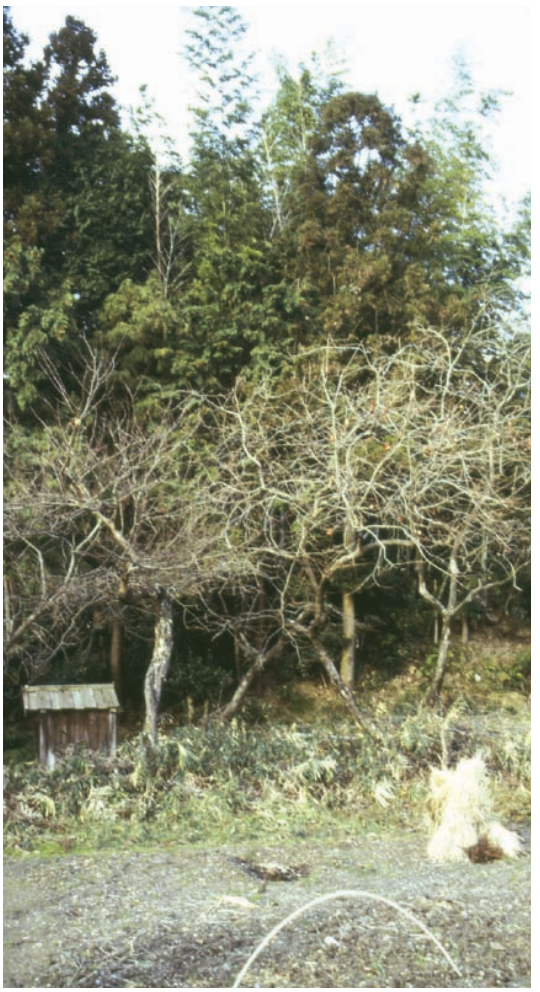


伝垣籠古墳出土須恵器

垣籠古墳測量図



垣籠古墳の位置


垣籠古墳現況

垣籠古墳の構造

明治期の2回の削平により、後円部のほとんどが失われていますが、その際の記録を詳細に検証すると、埋葬主体部は、これまで考えられてきた竪穴式石室ではなく、横穴式石室である可能性が高くなり、大型の古墳への、横穴式石室導入の初期段階の事例として、重要な位置付けを得ることとなりました。

明治期に出土した鏡、剣、刀、勾玉、管玉などは、『学術技芸若ハ考古ノ資料トナルベキ埋蔵物取扱ニ関スル件』(明治32年：内務省訓令)などの法令に基づき、宮内省に差し出されましたが、その後、関東大震災などにより散逸し、行方不明のままです。

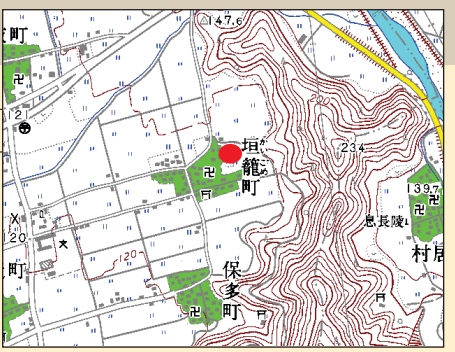
関連する文化財

上寺地遺跡（長浜市）	横山丘陵のふもとに広がる遺跡。埋没古墳が発掘されている
茶臼山古墳（長浜市）	学習シートNo.040
横山古墳群（長浜市）	横山城の所在する尾根に築かれた古墳群。多様な墳丘形態を持つ

もっと深く知りたい

長浜市教育委員会　☎0749-64-0395　長浜市小堀町32
安土城考古博物館　☎0748-46-2424　蒲生郡安土町下豊浦6678

垣籠古墳へのアクセス　ＪＲ北陸本線　長浜駅下車
北陸自動車道　長浜インター



【参考文献】〔近江の遺跡〕（財）滋賀県文化財保護協会　〔坂田郡史〕

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月